

参加者募集

# Beni 紅工房

## 着物リメイク手作り講座

手ぶらで来て、作って、お持ち帰り。

**開催日** 第1回 令和5年7月9日(日)・第2回 8月6日(日)・第3回 9月17日(日)・第4回 10月1日(日)の全4回

※第3・4回のみ、2講座1セットとなります。(1講座のみでの受講はできません)

**時間** 各回13:00~15:00  
※展示即売会も開催予定です。

**場所** 旧西牧小学校内 2F 教室  
(群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧4641-1)

**費用** 第1・2回は各3,000円(材料費込み)、第3・4回は計6,000円  
※第3・4回のみ、ご自身で一重(裏なし)の着物をご持参いただく必要があります。

**定員** 各回10名様限定  
※お申込みは先着順で、定員に達し次第締め切らせて頂きます。

**講師** 紅工房スタッフ(代表:高橋之子)

**持ち物** 裁縫ハサミ・縫い針・糸・物差しなどの裁縫道具。工房でもお貸しすることはできませんが、ご家庭にありましたらご持参ください。

**お申込み・お問合せ先** ※事前のお申込みが必要です。

NPO法人 日本子守唄協会事務局  
〒125-0054 東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階  
TEL:03-6458-0283  
FAX:03-6458-0284  
E-mail:info@komoriuta.jp  
URL:https://www.komoriuta.jp/

# EVENT

7月1日(土)~8月6日(日)は土日開催、  
8月10日(木)~8月16日(水)の  
7日間は夏休み特別開催

- 時間:10:00~16:00
- 場所:下仁田旧西牧小学校  
(下仁田町大字西野牧4641-1)内
- 入場料:無料
- 事前申込み:不要

### ■ 西牧村 本宿回想記 展示会

(絵:文・黛一子、文・構成・黛治男)  
昭和の古き良き時代の本宿・宿場町の思い出を絵と文で綴った「本宿回想記」の展示会です。懐かしい思い出がよみがえります。 ※後援:下仁田町

### ■ フジコ・ヘミング 絵画展・写真展

GW中に大好評頂いた絵画展・写真展を継続開催！フジコさんから寄贈されたピアノも展示します。

### ■ 多田欣也 MUSEUM

ガーデニング教室でおなじみのきんや先生の世界へようこそ！童心に帰ることができるノスタルジックな宝物いっぱい部屋です。

### ■ 『ありがとう、上信電鉄・デキ電気機関車』展

どこまでも底力と影に回り、働き続けたデキ電気機関車に感謝をささげる展示会です。

※共催:デキを愛する会

後援:上信電鉄株式会社・下仁田町

### ■ 売店「新しい夏バージョンの特売！」

これから袖を通したくなる「ゆかた」や、夏らしいバッグ、売店に仲間入りした「世界に一つしかないフラワーリース」など見どころ満載です。

## 町のご紹介

### ベリーこいど園



下仁田町の西牧地区で、主にブルーベリーと下仁田ネギを栽培されています。

ブルーベリーは約1,300本栽培し、収穫時期は6月上旬から8月中旬まで。旬の時期には新鮮なブルーベリーを販売。また、ブルーベリージャムやブルーベリーソースの製造販売もされています。

出来るだけ農業を使わず、日々の天候を気にしながら地道な農業をされていて、「味見をしながら収穫できること」がこだわりだそうです。観光農園ではありませんが、収穫時期には摘み取り体験も行っています。是非一度お問い合わせの上、足を運んでみてはいかがでしょうか。



### お問合せ先

ベリーこいど園  
代表 小井土 直也  
〒370-2626  
群馬県甘楽郡下仁田町南野牧6149  
TEL:0274-84-2115  
FAX:0274-84-2115



# ねぎぼうず 新聞 vol.06 2023 Summer



### Profile 蘭 日出哉 (あららぎ ひでや)

群馬県安中市松井田町出身  
日本獣医生命科学大学 獣医学科 卒業  
アリス動物病院(安中市原市)院長

## ピアノの縁、人の縁

蘭 日出哉

昨年十一月、廃校になった下仁田町の小学校でピアノコンサートが開催されるという新聞記事を目にしました。しかもそのピアノというのが世界的ピアニストであるフジコ・ヘミングさんから寄贈されたもので、実際に彼女が弾いていたピアノであると知って驚きました。フジコファンとしては、これはもう聴きに行くしかないと思い、即日電話で申し込みました。申し込み先である日本らばい協会の事務局にダイアルすると、優しい女性の声で丁寧に演奏時間等の案内をしてくださいました。

コンサート当日、紅葉に染まった妙義山を横目に眺めながら会場である旧西牧小学校へ向いました。車のトランクには、フジコさんの描いた版画が三枚積まれていました。「何かの役に立つかも知れない」という思いから、早朝車に入れておいたものです。ピアノとヴァイオリンによる演奏、とても

素敵でした。後藤泉さんが弾く温かみのあるピアノの音に、平澤仁さんのヴァイオリンが寄り添うように奏でる伸びやかな音... 久々に聴く生演奏にすっかり酔いしれていました。コロナ禍で制限されてきた様々な社会活動も徐々に再開されて、以前の日常を取り戻しつつあることを実感できた時間でもありました。冒頭の西館理事長のご挨拶を拝見して、電話応対していたときの、あの美声の主も理事長だったことが分かりました。

演奏会の後、校庭の端にあるベンチに3枚の版画を並べ、理事長に観ていただきました。絵を観た理事長は、「まあ、とても綺麗だねえ」と言ってくれました。良い手ごたえを感じた私は、「フジコさんの版画、まだほかにも持っていますので、ここで絵画展を開催しませんか」と提案すると、即「やりましょう」という返事をいただきました。

素敵でした。後藤泉さんが弾く温かみのあるピアノの音に、平澤仁さんのヴァイオリンが寄り添うように奏でる伸びやかな音... 久々に聴く生演奏にすっかり酔いしれていました。コロナ禍で制限されてきた様々な社会活動も徐々に再開されて、以前の日常を取り戻しつつあることを実感できた時間でもありました。冒頭の西館理事長のご挨拶を拝見して、電話応対していたときの、あの美声の主も理事長だったことが分かりました。

だっただ影響もあり、小さい頃から絵を描くのが好きだったそうです。フジコさんの絵は、子供時代の思い出や、大好きな猫、花、ヨーロップの友人などがモチーフとなっています。その絵は決して技巧的なものではなく、自由奔放に、そして彼女の心の中をそのまま表現していて、目の前に何枚か並べてみると、まるで壮大な絵日記のようになります。その絵日記を多くの人に観てもらいたい、味わってもらいたいという思いがありました。

「人が来てくれるだろうか」という心配をしたものの、会期が進むにつれて来訪者の数は右肩上がりに増えていってくれました。東京など遠方からのお客様、新聞広告を見て来てくれた県内の方たち、そして地元下仁田の方たちと、多くの人が会場に足を運んでくださいました。

「人が来てくれるだろうか」という心配をしたものの、会期が進むにつれて来訪者の数は右肩上がりに増えていってくれました。東京など遠方からのお客様、新聞広告を見て来てくれた県内の方たち、そして地元下仁田の方たちと、多くの人が会場に足を運んでくださいました。

「人が来てくれるだろうか」という心配をしたものの、会期が進むにつれて来訪者の数は右肩上がりに増えていってくれました。東京など遠方からのお客様、新聞広告を見て来てくれた県内の方たち、そして地元下仁田の方たちと、多くの人が会場に足を運んでくださいました。

# きんや先生の ガーデニング教室 inねぎぼうず

第一期が終了いたしました。「寄せ植え」という一回目の教室は、花に対しての見方を変えました。花にはそれぞれ人間のように性格や癖があり、その花たちは鉢の中で、仲良く咲き誇るのです。水や太陽の小さな呼びかけの中で、短い生涯になるか、長く咲いて見る人の心を癒してくれるのか、花の命を学びました。

ユニークなきんや先生の話術に笑いながら「寄せ植え」は完成しました。緑の



“きまろ”ばりの話術で講義



仲良くなったグリーンフレンド



人によって出来上がりが異なりました

家族の誕生です。大事に持ち帰りました。

2回目は長めのプランターを使っての寄せ植え。

3回目は初めてのハーブを。

4回目はたくさん種類の種類から選んでの多肉植物。

5回目はカワイイ羊のジオラマ入りミニチュア牧場の寄せ植え。

6回目は吊り下げタイプのバンキングバスケットに色とりどりの花たち。

教えは一人、きんや先生。草花もみんな一緒に配られたものなのに、完成すると十人十色、みんな一人一人違うものができることができました。鉢に土を置き、寄せ方にその人の個性あり、美もまた個別の感覚なのだわかります。

## 多田欣也プロフィール

1955年岩手県遠野市生まれ。31歳で一大決心をして上京。花の企画グループにて花と緑の仕事にかかわる。その後独立し、個人邸の庭のデザイン、イベントなどの花の装飾を行う傍ら、全国のガーデンセンター講師としても活躍。テレビ出演、執筆も多数。

私生活では日々イラストを描き貯め、天然素材を使ったクラフトも製作する自称ゼネラルコレクターとして、切手、ミニカー等の王道から、カップラーメンのフタまで多岐にわたる品々を収集。写真もコレクションの一つとして、田舎だけではなく、都会の消えゆく今を記録にとどめている。



この花たちは持ちかえると、一体どこに置かれるのでしょうか。

日の当たる風通しの良い窓辺でしょうが、外からも見える出窓もいいですね。

和室にもリビングにも子供部屋にも、どこにおいても自分で作った小さなガーデニングは、夏は花たちが自由に日を浴び、水を含み、自由に伸びていく時期なので、きんや先生の教室は一旦おやすみます。

その代わりに夏休み・特別授業として、お子さんでも作れるハーブの石鹸、こけ玉等の手作り教室を予定中です。自由研究にも一役買えそうな楽しい企画が始まります。

## 【きんや先生と夏の手作り体験】 夏休みの自由研究に親子で一緒にいかがですか!? もちろん、大人の方のみのご参加も大歓迎です。

- 開催日：令和5年7月30日(日)・8月6日(日)
- 時間：11:00~12:00(ハーブ石けん作り)  
13:30~14:30(こけ玉作り)
- 会場：下仁田旧西牧小学校内 2F教室  
群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧4641-1
- 費用：3,000円(1セット)
- 事前申込み：必要(開催日の3日前締め切り)

※小学生2年生以下は大人の方同伴をお願いします。  
※事前に材料準備が必要のため当日参加はお受けできません。

お申込み  
お問合せ先  
NPO法人 日本子守唄協会事務局  
〒125-0054 東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階  
TEL:03-6458-0283 FAX:03-6458-0284  
E-mail:info@komoriuta.jp  
URL:https://www.komoriuta.jp/

## 西牧村 本宿回想記 黛一子

interview

江戸の名残を留める宿場町。下仁田本宿は家並み街道の面影を残し、どこかにロマンを感じさせるままに、今は静かに眠っているよう。

その歴史と盛衰を先祖から現代まで追った絵画が黛一子氏の手によって蘇りました。



黛夫妻(左右)と西館好子(真ん中)

かつての懐かしい故郷は今も黛一子さんの中で生き続けているようですね。

はい、私の青春、そのすべてがかつての本宿ブームタウンにあります。

鮮やかに記憶されている子供のころの華やかな街の記憶を描いて残しておきたいと思ったのがきっかけで、心のまま絵筆を進め、主人に当時の記憶をまとめてもらいました。

構想って10年前くらいかしら、書き始めたのは。

でも、早く書かないとみんななくなっちゃうってなんか焦りもあって、走り書きみたいな筆を進めました。

よく記憶していらっしやいましたね。

下仁田本宿、その本宿が盛んな時、昭和24年頃でしょうか、今も目に焼き付いています。

ええ、その頃の本宿の賑わいってすごかったです。

湧いていました。戦後になって兵隊に行った人も帰ってきたし、結婚も盛んで子どももどんどん増えていく、いわばベビーブーム、農業も林業も町の花形、もともと商人と職人の町ですから、景気も良かったのです。それで必然的に繁華街ができたのです。それが必然的に繁華街ができたのです。わくわくする町ができたのです。本宿俱樂部「ブームタウン」はあらゆるジャンルの文化が集結する劇場でした。

ブームタウンという名付けは勅使川三郎さんという方でした。

まず映画、坂東妻三郎の「無法松の一生」なんか血道をあげていましたよ。

「羅生門」も「馬」もみました。

映画の他にブームタウンでは演芸会、のど自慢大会、八木節大会、ダンスパーティー、婦人会の総会、祭りの太鼓稽古、踊りの練習となんでもありました。

誰が考えたのでしょうか。

それが本場浅草で仕込んできたの。岩井喜三郎さんという方で、この方はお父さんが兵隊やくぎの主人公大宮喜三郎のモデルになった方です。浅草でいろいろ仕込んできたのを興行としてしかけたのでしよう。まだご健在で今回もあの

頃のことを取材させていただいたとき、本当にお力を貸していただきました。ここに誰が住んで何をしていたか細かくねというのにもあとになって新聞配達をなさっていて、各家のことなど詳しく覚えていて、くださったの。

今は想像もつきませんが、これからの復興などありませんかしら。

残念ながらないのでは。

思えば、トッポイ(都っぽい)町だった。でも思い出はよみがえることはないでしょうね。出て行った人は戻らないのですもの。

ご主人から一言

私はすぐ近くに住んでいました。直接本宿のことはわかりません。時々若い時に来たこの町は、それは賑やかでした。

下仁田最盛期。植林と伐採が同時に行われていて、その音が聞こえてきたことを記憶しています。あれだけの人たちがどこに消えてしまったのか、と思います。

仕事はないし、外に生活の糧を求めていかざるを得ない。今いる人は一時間圏内に仕事をもっている人か老人だけ。つまり、典型

次のガーデニング教室も花たちを使つての愉快な寄せ植えになりそうです。ふるつてのご参加をお待ちしております。

《お願い》毎回とても参加希望が多くなっています。当日参加は材料がない可能性がありまますので開催3日前にはご連絡くださいませ。

きんや先生は言います。

ガーデニングを通して家族との会話やコミュニケーションやご近所の方々のコミニティ等の輪が広がればと。そしてそれはこの教室で叶うことができました。この場所でガーデニングフレンドが芽生えたのです。

都会から疎開してきた子どもが自転車にまたがり走ったところから始まったブームタウンの「回想記」。

西牧村の《トッポイ町》に想いを馳せることでしよう。



旧西牧小学校内  
1階から2階までの展示風景

## 西牧村 本宿回想記

